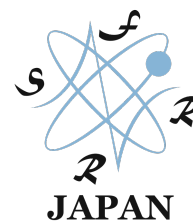


SFRR Japan NEWSLETTER

June 1, 2014



Top News

SFRR International 2014

成功裡に終了しました。

ご協力ありがとうございました。

Chairs 内藤裕二 / 豊國伸哉



時のたつのは早いもので、もう初夏を迎えようとしていますが、本年3月23日～26日に京都宝ヶ池の国立京都国際会館におきまして、第17回国際フリーラジカル会議が開催されました。本会のこの会場で開催は3度目となりました。桜の季節には1週間ほど届きませんでしたが、参加人数は593名、海外の35ヶ国から257名と多数の参加があり、たいへん盛会だったと思います。プログラムは、4つのプレナリー・レクチャー、Helmut SiesによるTrevor-Slaterアワード・レクチャー、20の多彩なシンポジウム、一般口演、ポスター、モーニングスクール、9つのMeet the Professorセッション、4つのEvening レクチャー（1つは中止）、Author workshopさらに初日の朝から4つのサテライトシンポジウムと充実しており、海外からの参加者からも好評でした。若手の育成のために今回は賞も多数準備し、学生・ポスターの参加費を格安にしました。多数の若手研究者が会場で熱心な議論をしていたのが印象的です。今回の学会では、かなり円熟してきたフリーラジカル化学・生物学・医学の領域において、その重要性の再認識ができたこと、社会への成果のフィードバックを研究者が十分に意識していることを感じ取ることができました。円熟してきたとはいえ、測定技術の進歩や新しいコンセプトが日々産まれているのも事実であり、多数の新しい研究者を巻き込んでの本領域のますますの発展が望まれます。また、本学会では研究者同士の交流の場も多数設けました。ウェルカムパーティーでは日本酒がサーバーで提供され、座長パーティーでは和食と折り紙の企画、居酒屋パーティーでは国別のど自慢対抗戦などさまざまな工夫がこらされました。また、最終日の晩餐会はキャンセル待ち状態となり、鏡開き、舞妓さん芸妓さんによる華麗な舞やすばらしいバイオリンの演奏がありました。このように大過なく会は成功裡に終わりましたが、これも日本酸化ストレス学会会員の先生方の御支援あってのものであり、この紙面をお借りしてシンポジウムの企画・座長・発表あるいは議論により会を盛り上げていただいたことに対して、心より御礼申し上げます。また、陰には周到な準備があったのも事実であり、事務局は1年近くに渡り、毎月京都府立医大に集まり、運営会議をしました。上野コングレスサービスならびに事務局のみなさま、そして運営に関わった京都府立医大・名古屋大学の学生・スタッフのみなさまに深謝いたします。本会においては、フリーラジカル領域における日本の研究者のプレゼンスを示すことができたのではないかと思います。本会により、日本の若手研究者がますますこの領域に流入し、またみなさまの研究も新しい発展をみせることを祈念しております。

平成26年5月16日

第17回国際フリーラジカル会議
議長 内藤 裕二、豊國 伸哉 事務局 長 半田 修



◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇



第67回日本酸化ストレス学会学術集会

日 時: 2014(平成26)年9月4日(木)～5日(金)

会 場: 同志社大学良心館

(京都駅から地下鉄5駅、今出川駅下車徒歩1分)

〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/buildings/imadegawa.html>

開催のご挨拶

会 長: 野口 範子

(同志社大学生命医科学研究科・システム生命科学研究室 教授)

このたび、京都御苑の北に位置します同志社大学におきまして、第67回日本酸化ストレス学会学術集会を開催させていただきます。3月に京都国際会館で開催されましたSFRRIには海外から多くの研究者が集まり、大盛況のうちに無事に終わることができうれしく思っております。その余韻覚めやらぬ間に、暑い夏の京都にぜひお越しいただけますよう、熱い企画を準備してお待ち申し上げております。本会では3つのテーマを基にシンポジウムを設定いたしました。シンポジウムI「Cell Death & Survival」、水島昇(東京大学医学部分子生物学・教授)特別講演: オートファジーによる細胞内分解の生理的意義と分子機構、シンポジウムII「iPS細胞と再生医療の近未来」、高橋和利(京都大学iPS細胞研究所・講師)基調講演: 細胞の運命転換とその応用、シンポジウムIII「生物学的プロセスの時間・空間的制御」、小林久隆(アメリカ国立がん研究所・教授)招待講演: Photo-immunotherapy: A newly developed, target cell-specific cancer therapy がんの光線免疫療法: 新開発細胞特異的治療の特徴と応用方法。各シンポジウムの詳細はプログラムをご覧ください。受賞講演も予定されています。学会賞: 馬嶋秀行(鹿児島大学腫瘍学講座)、学術賞: 半田 修(京都府立医科大学消化器内科)、永井竜児(東海大学農学部)複雑系である生命システムの理解からヒトの病気のしくみを探り、そして人の幸せを実現する医療を考える会になればと願っております。本会でのディスカッションの中から酸化ストレス学の新しい展開が起こることを祈念して、多くのご参加をお待ち申し上げます。



事務局: 同志社大学生命医科学研究科・システム生命科学

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

E-mail: sfrrj2014@uenocongress.jp

第67回学術集会 演題募集締切が延長されました!

2014年6月10日(火)正午 → 6月20日(金)正午

詳細は、学術集会HPまで <http://sfrrj67.umin.jp>

同時に学術奨励賞の公募も行っております。是非多数の若手研究者のご応募お待ちしております。

学術集会の発表者(筆頭発表者)は日本酸化ストレス学会会員に限りません。非会員の方は、事前に必ず会員登録をお願いいたします。当日の会場にでも入会申込みを受付いたします。

【応募条件】※詳細はHP参照。

1酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与する。ただし、研究業績はその主要な部分が日本国内で行なわれたものに限る。

2当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。ただし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

SFRR2014 Young Investigator Award 受賞者

SFRR2014では、若手の奨励の為に、各種奨励賞の授与が行われ、日本酸化ストレス学会よりも多数の受賞者が選出されました。

SFRR2014では、世界の関連SFRR Society (SFRR Europe, SFRBM, SFRR Australasia, SFRR Asia, OCC) 他、関連出版社などのサポートも含め、総計42件の授与が行われました。日本酸化ストレス学会よりも多数の受賞者が選出されました。受賞者の皆様、おめでとうございます。今後の益々のご活躍をお祈り致します。

SFRR Asia Young Investigator Award & Travel Award

Informa Healthcare young investigator award

Toshihiro Kurahashi, Japan

Hironobu Yasui, Japan

SFRR Asia Young Investigator Award

Yusuke Kanda, Japan

Shinsuke Hisaka, Japan

Informa Healthcare prestigious poster award

Takaya Iida, Japan

Yusuke Horii, Japan



OCC Young Investigator Award

Fumio Tanaka, Japan



ARS Young Investigator Award

Satoshi Nishimura, Japan

SFRR2014 Young Investigator Award

Masaki Nagane, Japan

Lue Sun, Japan

Mati Ur Rehman, Japan

Yuriko Matsumura, Japan

Akifumi Fukui, Japan



SFRR Japan Young Investigator Award

Alexander M. Wolf

Diep-Khanh H. Vo

Yasuhiro Ishihara

Yukiko Uehara

Paras Jawaid

副賞ってどんなものがあるの？

SFRR Asia では、賞によって、800£、500£、500US\$等の現金もしくは振込や、オフィシャルジャーナルFRR1年無料購読などの授与。日本酸化ストレス学会奨励賞(YIA)は、各自2万円の現金を授与実績があります。

日本に留学中の外国人会員の活躍も目覚ましく、国内外の若手研究者が切磋琢磨しながら、益々本会の盛り上げに一役買っていたる事を祈念しております。今回は、パキスタンより夫妻で富山大学に留学中の、マティさんとパラスさんが、夫妻でのダブル受賞は珍しいとのことで、北日本新聞に掲載されたとの報告がありました。このように、本会での活躍が様々な場面で広報され、更なる本会若手皆様の活躍に繋がる事を期待しております。

海外での関連学会における若手奨励賞(YIA)の公募も随時行っております。

SFRR Asia では、Official Journalである Free Radical Research の出版社

Informa社の協力を得て、通常のYIA Awardの他、Travel Awardも昨年度より新設しております。公募情報は随時、学会HPに掲載しておりますので、是非ご確認ください。



夫妻同時に
優秀発表賞
男性論文発表の国際会議

(Mati Ur Rehmanさん/ Paras Jawaidご夫妻)

日本酸化ストレス学会では、様々な賞を設けております。

【学会賞】その業績が日本の酸化ストレス研究を代表しかつ世界に通用するものであり、本会の運営あるいは発展に特に顕著な功績のあった研究者に対し授与。(会員歴10年以上)

【学術賞】過去の研究歴ならびに業績より総合的に判断し、本学会ならびに世界において今後の顕著な活躍が期待される者に対して授与。(会員歴5年以上・50歳以下)

【学術奨励賞】酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与。(会員歴3年以上・男性40歳以下/女性45歳以下) 年次研究会への演題応募と同時に応募の事。

【八木記念学術奨励賞】JCBNでの前年度1年間の発表の原著論文執筆者(会員・男性40歳以下/女性45歳以下) ※詳細は、会則・細則をご参照下さい。

毎年公募をしておりますので、是非、多くのご応募宜しくお願い致します。

【Young Investigator Award】 (YIA)

若手研究者奨励の為に、SFRR International/SFRR Asia Biennial Meetingでの発表者に YIA (奨励賞) を授与しております。

日本酸化ストレス学会 奨励賞 5名程度

上記以外に上部組織であるSFRR AsiaのYIAも毎年授与予定されておりますので、是非ご応募下さい。



◇◇◇ 学会レポート ◇◇◇

フリーラジカルサマースクールに参加して

半田 修 (京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科)

「行って発表してきて」と上司のN先生に言われたのは、5月のことでした。開催地をよく調べもせず、館山と言えば東京から2時間ぐらいかかる山奥の涼しいところかな?とか、やっぱり、研究会だからスーツで行こうかな?とか、思案しながら8月の暑いさなかに涼を求めつつ一路、館山へ向けて出発しました。そして着いた先、館山は。。。海が一望、砂浜まで徒歩20秒。太平洋の熱い日差しがさんさんと降り注ぐ、どこか懐かしいビーチリゾートではないですか。しかも、参加者の短パン率が高すぎ。おっ!

そんな感じで私のサマースクール初体験は始まりました。筑波大学の研修施設で、3日間お勉強です。私自身は3日目に用事があったので、残念ながら2日目の昼までしか参加できませんでした。

1日目は他の講師の先生の講義を拝聴し、私自身も発表を終えて、頭が満腹になったところで、夕ご飯は懐かしい感じの唐揚げとソーセージ、ご飯、味噌汁です。大人なのでビールサーバーも用意されています。食堂で皆と一緒に「いただきます!」から始まって「ごちそうさま!」まで、行儀良い感じです。松井校長ご用意の日本酒がおいしくてつい飲み過ぎてしまいます。自己紹介で盛り上がるのも合宿っぽくて胸キュンです。その後カラオケスナックに繰り出して大暴れ。ドラマチックでした。宿舎に帰ってきたら、相部屋の皆で布団を敷いて、誰ともなく電気を消して、いつもと異なる超快速入眠でした。

翌日、朝食直前に奇跡的に目が覚めて、頭が痛い中、皆で「いただきます!」。焼き魚定食で元気を出した後は、お勉強です。今日は夜に花火大会が目の前の突堤でおこなわれるので、時々、宣伝用の花火が打ち上げられます。その音を聞きながら授業を受けるのは、幼い頃の追体験をしているようで、なかなか情緒あふれます。あ、夏の追体験を受けた人しかこの懐かしさはわかりませんね。昼食はカレーです。涙ものの絶妙な懐かしさ。おかわりすれば良かった。

ここまでの私のサマースクール初体験です。私が帰った2日目の昼以降、強力なメンバーが続々参加されてこられるとのことでしたので、かなりの盛り上がりを見守りつつ、館山を後にしました。

暑い夏、楽しい仲間、懐かしい合宿、そしてリラックスした中での勉強。安い参加費でこれだけの満足感を得られるのはひとえに校長の松井先生をはじめとして研究室の皆さんが色々尽力頂いているおかげだなと頭が下がりました。是非、来年も参加したいと思います。ありがとうございました。



◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

Free Radical School in 館山 2014

会 期:平成26年8月7日(木)~9日(土)

会 場:筑波大学館山研修所

〒294-0045館山市北条2861

TEL0470-22-1942

(外房線館山駅から徒歩3分)

<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/facilities/s-tateyama.html>

事務局:参加申し込み希望者は筑波大松井、放医研松本まで。

SFRR-E 2014 Meeting

SFRR-Europe 2014 Meeting 会期: September
Cordeliers Campus, Paris 6ème, France <https://europe.org/congresses/>



Society for Free Radical Research - Europe

Society for Free Radical Biology and Medicine 21st Annual Meeting

会期: November 19-23, 2014 会場: Seattle, Washington, USA
Sheraton Seattle Hotel

1400 6th Ave

Ph: +1 800-325-3535

Further information:

www.sfrbm.org/sections/annual-meeting/information



第31回臨床フリーラジカル会議

会 期:平成26年12月5日(金)p.m.~6日(土)a.m.

会 場: 煙河(けぶりかわ) 会議室 (京都府亀岡市)

〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松1-1

TEL 0771-26-2345

<http://www.keburikawa.com>

当番世話人: 吉川 敏一

(京都府立医科大学学長)

問い合わせ先: 臨床フリーラジカル会議 事務局

京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内

e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp



2014年度関東支部会年会

会 期:平成26年12月20日(土)

会 場: 筑波大学東京キャンパス文京校舎

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.htm

地下鉄丸の内線茗荷谷駅徒歩2分

会 長: 松井裕史 (筑波大学大学院人間総合科学科消化器病態制御学)

事務局: 神奈川歯科大薬理学教室 (李研究室)

平成26年度日本酸化ストレス学会東海支部学術集会

日 時: 2015年2月7日(土)

会 場: 名城大学薬学部八事キャンパス

(〒468-8503 名古屋市天白区八事山150)

大会長: 小嶋伸夫 (名城大学薬学部)

事務局: 事務局長 岡本誓士典

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150

名城大学薬学部 衛生化学研究室

Phone: 052-839-2677

Fax: 052-834-8090

E-mail: okmt@meijo-u.ac.jp



SFRR International 2016 (18th SFRR International)



次回、国際フリーラジカル学会は、サンフランシスコで2016年にSFRBMの年次学会と同時に開催予定となりました。

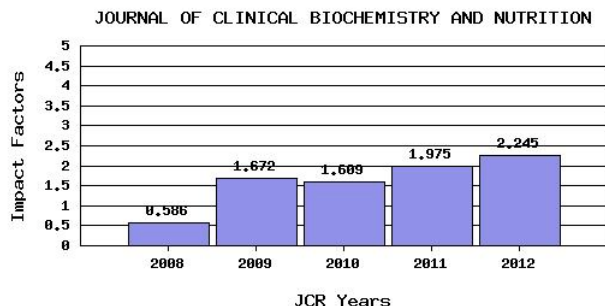


オンラインによる投稿随時受付中！

Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

現在の Impact Factor : 2,245 (2012)



JCBN誌は、年6回(毎奇数月)に発行の英文雑誌です。広く、投稿を公募しております。(現在の採択率:4-5割程度)

応募規定は、学会HPよりご確認ください。

シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第7回



長野 由美子
(筑波大学)

四十の手習いではないが5~6年ほど前からマラソンを始めた。きっかけは単純、痩せるためである。20年弱勤めた企業を退職して、縁あって筑波大学M先生のラボに受け入れていただいた。毎回楽しく実験してさらに毎晩楽しく宴会を繰り返していたらあっという間に10キロ体重増加。こりゃいかんと自宅近くのスポーツジムに通って15年、これがなかなか痩せない。しかも体質的なものなのかすぐに体形が変わる。水泳始めて肩こりが改善されたのはいいが、なで肩だったはずが今では「立派な肩幅ですね」と褒められる。そしてやっぱり痩せない。そこでジム友の誘いもあり、巷のブームにのってマラソンを始めたわけである。案の定下半身ががっしりとふくらはぎが太くなってしまった。昔から運動神経がよかったわけではない...というかどちらかというところ。鈍い。ボーっと何も考えずにただ走っているのは性に合っているようだ。しかしマラソン大会となると話は別である。長時間激しい運動を継続しているため乳酸だけでなく、全身に活性酸素種が発生して酸化ストレスがどんどん溜まってくる。もう気分は強制回転かごの中のラットである。メンタルの悪化と共に増えていく酸化ストレスがハッキリと実感できる。毎回ゴールしたときに「もう2度と走らない」と叫ぶ。しかしその後の宴会であっけなく活性酸素種は消去される。アルコールって酸化ストレスじゃないか...なんてM先生には言えない。

マラソンといえば紫外線対策が大切とされているが、美白信者ではないのと面倒くさがり屋なので何もしていない。大会に出て1日外にいると真っ黒になってしまうが、なんか頑張った気分がうれしい。日焼けして何がいけないんだっけ？ そうだ皮膚がんだった。皮膚がんには何種類もあるらしく、そのタイプと進行具合によって死亡率は異なるらしい。皮膚がんの中でも最も厄介で恐ろしいと言われるメラノーマの年間死亡者数は約450人くらいのこと。あれ？ 意外に少ない。だがその半面過度な紫外線をさける生活習慣はビタミンD欠乏症をまねく。なぜなら人体ではビタミンDはプロビタミンD3と波長290-315nmの紫外線により体内で合成されるからである。そういえば最近乳児のくる病が増加していて、生後間もなくの乳児にビタミンD内溶液の処方がある。ビタミンD欠乏症はくる病だけでなく、我々のこれからの老後にも深く関係してくる。ビタミンDは体内でカルシウムの吸収率を高めて骨の新陳代謝を活性化するので、欠乏すると骨粗鬆症にもなりかねない。年を重ねるごとに益々楽しく充実した毎日を送らなければならないのに、大腿骨や骨盤を骨折でもしたらその後のQOLにも多大な影響を与えかねない。

日本人の平均寿命まであと40年。我々“美ジョガー”の合言葉は「しっかり食べてお日様の下で運動！ 顔のシミより骨が大事！！ 元気に楽しい老後を送ろう！！」なのである。

SFRR Asia President-elect に

本会理事 豊國伸哉先生が選出されました！

SFRR Asia加盟Regionより広く募られた4名の候補の中より、on-line投票システムを通して、会員各位からの投票の結果、圧倒的多数の票を集め選出されました。おめでとうございます。任期は、2014年~2015年の2年間。その後2016年からはPresident就任予定。

現在の役員は以下の通り。本会より多数の役員を選出しております。

Officer of SFRR ASIA (2014-2015)

President: Daniel Tsun-Yee Chiu (Taiwan)
President-elect: Shinya Toyokuni (Japan)
Secretary-General: Yuji Naito (Japan)
Treasurer: Hideyuki J. Majima (Japan)
Representative: Shinya Toyokuni (Japan)
Noriko Noguchi (Japan)

SFRR Asia オフィシャルジャーナル “Free Radical Research”

http://sfrj.umin.jp/asia/en_Official_Journal.htm

会員特別価格での定期購読の受付を行っています。

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

次回SFRR Asia の開催地が決まりました！

7th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia

Date: November 29th to December 2nd, 2015
Venue: Chiang Mai, Thailand
President: Prof. Maitree Suttajit (President of SFRR Thailand)

詳細は: <http://www.sfrthailand.net>

YIAの公募も予定しております。是非、ご予定下さい。



◆◆◆ 事務局より ◆◆◆

【会費納入のお願い】

日本酸化ストレス学会では、年度初め(毎年1月)に会費納入のご案内を差し上げております。会費納入にご協力お願い致します。連絡のないまま滞納が続いている会員が見受けられます。退会希望の場合は、退会希望の年度内に次年度の退会希望をお知らせ下さい。事務局宛の連絡が戻ってこない場合は、継続しているものとみなし、継続期間の年会費を納入して頂く事となります。長期未納で自然退会処分の場合も、連絡がない期間の会費が請求されますので、ご注意ください。

【会員情報 変更・追加等連絡のお願い】

会員情報変更などが行われていない為に、連絡先不明となることが多発しております。転居先不明などで連絡が取れない場合、学会情報などをお送りすることが出来ません。必ず、変更手続きを事務局宛ご連絡下さいませよう、重ねてお願い申し上げます。



SFRR Newsletter 2014年6月号

発行: 2014年6月1日

SFRR Japan Newsletterに掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 (総務委員会:内藤裕二・半田 修)
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路ル梶井町465
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521
E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp
HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>